

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

## 化学品の名称：

製品名称：ラウリルアルコール（化学用）

製品番号(SDS NO)：D001460-1

## 供給者情報詳細

供給者：国産化学株式会社

住所：東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署：品質保証部

電話番号：045-328-1715

FAX：045-328-1716

e-mail address：cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先：国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

## 2. 危険有害性の要約

## 製品のGHS分類、ラベル要素

## GHS分類

## 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分 2B

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分 2(肺)

## 環境有害性

水生環境有害性(急性)：区分 1

水生環境有害性(長期間)：区分 1

(注)記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

## GHSラベル要素



## 注意喚起語：警告

## 危険有害性情報

眼刺激

臓器の障害のおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

## 注意書き

## 安全対策

環境への放出を避けること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

## 応急措置

漏出物を回収すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

## 貯蔵

施錠して保管すること。

#### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：

化学物質

化学的特定名：ドデカン-1-オール

慣用名、別名：1-ドデカノール、ドデシルアルコール、ラウリルアルコール

| 成分名      | 含有量(%) | CAS No.  | 化審法番号 | 化学式                               |
|----------|--------|----------|-------|-----------------------------------|
| 1-ドデカノール | -      | 112-53-8 | 2-217 | C <sub>12</sub> H <sub>26</sub> O |

#### 危険有害成分

化管法「指定化学物質」該当成分

1-ドデカノール

### 4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

吸入：咳、咽頭痛。

皮膚：発赤。

眼：発赤、痛み。

経口摂取：吐き気、鎮静。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

### 5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 関係者以外は近づけない。
- 回収が終わるまで十分な換気を行う。
- 適切な保護具を着用する。
- 着火源を取除くとともに換気を行う。

環境に対する注意事項

- 上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。
- 下水、排水中に流してはならない。
- 粉じんが飛散しないようにする。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 掃き集めて、容器に回収する。

二次災害の防止策

- 漏出物を回収すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

（取扱者のばく露防止）

- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

（火災・爆発の防止）

- 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

注意事項

- 眼に入らないようにする。
- 粉じんの堆積を防止する。

安全取扱注意事項

- 指定された個人用保護具を使用すること。
- 取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。
- 取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
- 施錠して保管すること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

ばく露防止

設備対策

- 排気/換気設備を設ける。
- 洗眼設備を設ける。
- 手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

- 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

- 保護手袋を着用する。

眼の保護具

- 側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗う。

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：液体または結晶

色：無色または白色

臭い：特有臭

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：(101.3 kPa) 250°C

融点/凝固点：24°C

引火点：(1-ドデカノール)(C.C.) 121°C

自然発火温度：250°C

爆発特性：引火又は爆発範囲

下限：0.5 vol %

上限：4.0 vol %

蒸気圧：1.3 Pa (24°C)

相対蒸気密度(空気=1)：6.4

20°Cでの蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1)：1

比重/密度：0.83

溶解度

水に対する溶解度：非常に溶けにくい (0.0004 g/100 ml, 25 C)

溶媒に対する溶解度：エーテル、アルコールに可溶。

n-オクタノール/水分配係数：log Pow5.4

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

酸化性物質および酸と激しく反応する。

混触危険物質

酸、酸化性物質

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

## 11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

ラットを用いた経口投与試験のLD50値>12.8 mL/kg(10,600 mg/kg)、>36 mL/kg(29,880 mg/kg) (以上、SIDS(1992))、>10,600 mg/kg、>12,800 mg/kg(以上、PATTY(5th, 2001))であるが、いずれも区分4の基準値を超えているため区分外とした。

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

モルモットを用いた経皮投与試験のLD50値10 mL/kg(8,309 mg/kg) (SIDS(1992))から区分外とした。

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

ラットを用いた1時間、6時間、18時間吸入暴露試験において、いずれの暴露時間でも1.05 mg/Lで死亡が確認されなかった(SIDS(1992))との記述がある。25°Cにおける飽和蒸気圧濃度0.0086mg/Lの液体なので、ミスト基準を適用すると、4時間LC50値の換算値は >0.2625 mg/Lと考えられる。区分を特定できないため、分類できない。

#### 局所効果

##### 皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

ヒトに対する4時間皮膚刺激性/腐食性試験(OECD TG 404, GLP)で、「not irritating」(IUCLID(2000))であることから区分外とした。なお、ウサギを用いたDraize試験で「highly irritating」(IUCLID(2000))との記述があるが、一次文献(J. Soc. Cosmet. Chem. 28(1977))を調査したところ、24時間試験であり、「刺激性の程度は、ウサギ、モルモット、マウス、ヒトの順で低下する」と記述されている。また、ウサギとマウスを用いた24時間皮膚刺激性試験で、「slight to moderate irritation」(PATY(5th, 2001))との記述がある。いずれも24時間試験であるため採用できない。

##### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

本物質をそれぞれ68.9%、63.3%含む市販ラウリルアルコールA、Bに対する、ウサギを用いた眼刺激性試験で「mild irritation(主に結膜において)」(SIDS(1992))であり、14日後にはすべて回復したことから、区分2Bとした。なお、市販ラウリルアルコールA、Bの成分は、いずれも高級アルコールで、以下の通りである。A: C10が0.3%、C12が68.9%、C14が25.1%、C16が5.1%、C18が0.3%、0.3%が未特定。B: C10が0.1%、C12が63.3%、C14が24.1%、C16が8.3%、C18が0.4%、3.8%が未特定。

#### 感作性

##### 皮膚感作性

[日本公表根拠データ]

ヒト(ボランティア、25人)に対するMaximization試験で「not sensitizing」(IUCLID(2000))のデータがあるが、List2の情報源であり、データ不足のため分類できない。

#### 生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

体細胞in vivo変異原性試験(マウス骨髄細胞を用いた小核試験)で陰性(SIDS(1992))であることから区分外とした。

#### 発がん性

[日本公表根拠データ]

主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データもないので分類できない。なお、「マウスを用いた腹腔内注入試験では、肺腫瘍の統計的な増加はみられなかった。反復局所使用により軽い発がん補助効果がみられたが、処理群と非処理群との差異は小さく結論には疑問がある」(SIDS(1992))との記述がある。

#### 生殖毒性

[日本公表根拠データ]

ラットを用いた反復投与毒性試験と生殖/発生毒性スクリーニング試験を組み合わせた試験(OECD TG 422, GLP)で、「親毒性としては、妊娠率がわずかに減少したが、統計的に有意ではなく、妊娠期間に変化はなく、生殖器官の異常も観察されなかった。発生毒性としては、出生率や児の体重、死亡率、性分布に変化はなく、剖検においても異常は認められなかった」(SIDS(1992))との記述があるが、簡易試験であるため、分類できない。

#### 催奇形性データなし

#### 短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

#### 特定標的臓器毒性

##### 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

ラットを用いた吸入暴露試験で、「肺刺激の兆候、軽度の呼吸困難、肺の中の軽度の出血」(SIDS(1992))を生じる旨の記述があり、いずれも区分2のガイダンス値の範囲内でみられているため、区分2(肺)とした。

#### 吸引性呼吸器有害性データなし

**12. 環境影響情報**

## 生態毒性

## 水生毒性

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

## 水生毒性（急性）成分データ

[日本公表根拠データ]

藻類（セネデスマス）の96時間EC50 = 0.97mg/L (SIDS, 1998) から区分1とした。

## 水生毒性（長期間）成分データ

[日本公表根拠データ]

急性毒性区分1であるが、生物蓄積性がある (LogKow = 5.13、PHYSPROP Database, 2008) と推定されることから区分1とした。

## 水溶解度

非常に溶けにくい (0.0004 g/100 ml, 25 C) (ICSC, 2013)

## 残留性・分解性データなし

## 生体蓄積性

log Kow = 5.13 (PHYSPROP Database, 2008)

## 土壌中の移動性データなし

## オゾン層破壊物質データなし

**13. 廃棄上の注意**

## 廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

## 汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

**14. 輸送上の注意**

## 国連番号、国連分類

番号：3077

品名（国連輸送名）：

環境有害物質、固体、N.O.S.

国連分類（輸送における危険有害性クラス）：9

容器等級：III

## 指針番号：171

特別規定番号：274; 331; 335; 375; A97; A158; A179; A197

## バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質（Y類）

1-ドデカノール

**15. 適用法令**

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法に該当しない。

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

1-ドデカノール99%  
消防法に該当しない。  
化審法  
優先評価化学物質  
1-ドデカノール  
船舶安全法  
有害性物質 分類9  
航空法  
その他の有害物件 分類9  
適用法規情報  
海洋汚染防止法: 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)  
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法): 廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)  
輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」  
輸出貿易管理令別表第1の16の項  
輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認)

## 16. その他の情報

### 参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN  
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)  
2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)  
2016 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>  
JIS Z 7253 (2012年)  
JIS Z 7252 (2014年)  
2015 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)  
Supplier's data/information

### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。  
ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。  
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。